



個人研究主題

第二言語習得における学びに向かう力の育成

—自己調整学習を促す指導の工夫と学びをつなげる振り返りの仕方について—

牧野 尚史

研究の要旨

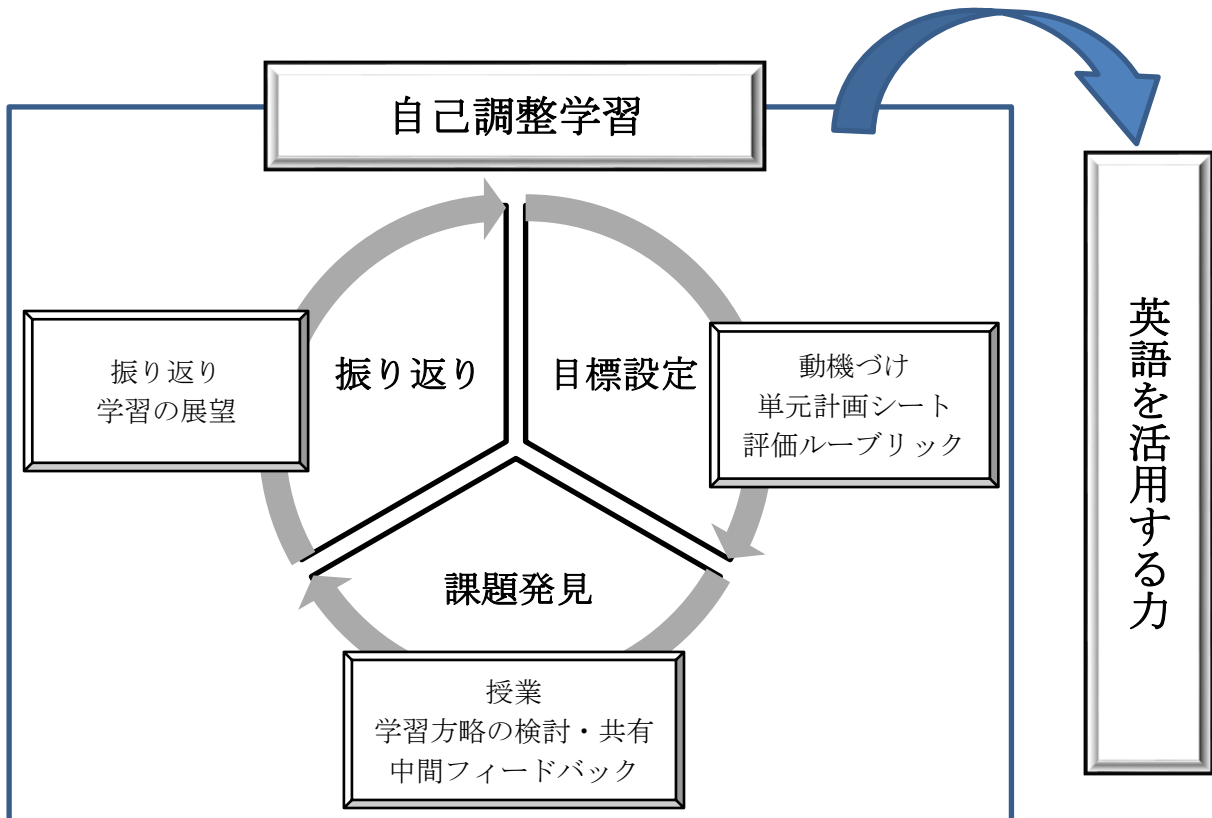
先の研究では、第二言語習得の認知プロセスに基づいた授業と単元の計画を考え、生徒の英語を活用する力を育成する方法を検証した。また生徒が「学びに向かう力」を身につける手立てとして単元計画とパフォーマンス課題に対するルーブリックの評価シートを活用し、生徒が学びに向かう力に変化があるかどうかを検証した。

今年度から新学習指導要領が全面実施となり、多くの情報の中から必要な情報を聞いたり、読み取ったりして、相手にわかりやすく伝えたり、意見を述べたりする力が求められている。つまり、英語の4技能を統合的に活用する力を育成する必要がある。そのような英語を活用する力を生徒が身につけるためには、生徒自身が目標を持ち、目標を達成するための方略を活用し、課題に挑むこと、そして学習を振り返り、次につなげる、そんな自己調整をしながら学びに向かう力が必要である。

そこで、先の研究で実践してきた第二言語習得の認知プロセスに基づいた授業展開と評価ルーブリックシートの活用に加え、動機づけの工夫、単元の目標設定、自信度変化チェック、学習方略の提示と共有、中間フィードバックを加えることで、自己調整学習する力を生徒が身につけ、さらには英語を活用する力も伸びると考え、実践と検証をしていきたい。

■キーワード

動機づけ、単元の目標設定、自信度変化チェック、学習方略、中間フィードバック





英語科学習指導案

令和3(2021)年8月25日(水) 第6校時
第1学年B組 授業者 教諭 牧野 尚史

1. 単元名

「Unit4 Friends in New Zealand」

2. 単元設定の理由

本単元は、朝美と海斗がインターネット電話を通じてニュージーランドの姉妹校の生徒と会話をする場面が設定されている。日本とニュージーランドの気候の違いや時差、ニュージーランドの習慣や人気のあるスポーツ等の話題が盛り込まれているため、異文化への理解を深めるきっかけとなる教材として適している。言語材料は命令文(Don't.../ Be...を含む)、What time...?と応答、What+名詞...?と応答を扱う。知りたい情報をたずねる時に使用する表現が自然な形で示されている単元である。

生徒は、本単元で設定されている言語材料は、小学校で既に触れているものである。本文の内容(目的や場面)からどんなことを述べているのか理解した上で、使われている表現をコミュニケーションの中で使いながら学ぶことが望ましい。また1学期から毎時間授業のはじめにスマールトークをしている。小学校で学んできたことに加えて、中学校で新しく学んだ表現を実際に使うことをしてきている。その中で、会話を続けるための質問の仕方や答え方、そしてリアクションについて活用しながら身に付けている。

本単元では、文化の異なる姉妹校の生徒と会話をする場面である。目的は英語を使いながら、相手のことを知るためのやり取りをすることである。教科書の場面を活用して、文化の異なる相手のことを知り、自分のことを知ってもらうのにどんな質問が適しているのか、そして質問からどんなやり取りをすればいいのかを考えながら、単元の終わりには実際に文化の異なる生徒とZoomを通じて会話をする計画である。そのゴールに向かった単元で必要な力をつける指導をしていきたい。また本年度の個人研究主題にもあるように、単元をとおして予見・遂行・省察という自己調整学習の3段階の流れを単元の中に取り入れ、生徒が自らの学習を調整していく力を育む指導をし、生徒の自己調整学習力を育てていきたい。

3. 単元の学習目標

やり取りの練習をとおして、質問力や回答力をアップさせ、相手のことを知り、自分のことを知ってもらうためのやり取りをしよう。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①やり取りの中で5W1HのオープンクエスチョンやYesまたはNoで答えるクローズドクエスチョンを正しく使い、質問をすることができる。 ②やり取りの中で相手の質問を理解し、正しい表現で質問に対する回答をすることができる。	③お互いのことをよりよく知るために、目的や場面を理解し、オープンクエスチョンやクローズドクエスチョンを使い、会話を深めることができる。 ④自分のことをよりよく知ってもらうために、目的や場面を理解し、相手の質問に対して、+1文や+2文の情報を加えて回答することができる。 ⑤相手に話に対して、興味や関心を持ち、適切なリアクションを使って反応しようとしている。	⑥お互いのことをよりよく知るために、目的や場面を理解し、オープンクエスチョンやクローズドクエスチョンを使い、会話を深めようとしている。 ⑦自分のことをよりよく知ってもらうために、目的や場面を理解し、相手の質問に対して、+1文や+2文の情報を加えて回答しようとしている。 ⑧会話を5ターン以上続けることができる。



5. 単元の学習計画（全13時間）

時程	学習活動	評価の観点		
		知	思	主
第1時	Unit4のガイダンス			
第2時	Small Talk, Q&A 練習, 内容理解, 音読, 教科書をモデルに話してみる。			
第3時	Small Talk, Q&A 練習, 内容理解, 音読, 1日の行動を英語で伝えてみる。			
第4時	Small Talk, Q&A 練習, 内容理解, 音読, 教科書にオリジナル文を加えてみる			
第5時	中間フィードバック (Unitの目標や今までの学習の振り返り)			
第6時	Small Talk, Q&A 練習, 相手を知り, 自分を知ってもらう質問について考える！ (本時)			
第7時	Small Talk-Part2-	◎	◎	◎
第8時	Unit4の振り返り			◎
第9時	Zoomを体験する			
第10時	台湾の中学生とZoomを使って交流する			
第11時	台湾の中学生との交流の振り返り			

6. 単元構想

学校教育目標	グローバル社会に生きてはたらく力		
1 自他の人格を尊重し、連携協力し合える人間に	多様性を尊重する	柔軟な見方・考え方	協調・協働する力
2 創造的な知性と正しい判断力をもつ人間に	幅広く教養を身につけようとする	多角的な見方・考え方	論理的に発信する力
3 自然と文化を愛する心豊かな人間に	国や郷土を愛する	国や郷土の文化や自然を探究する力	魅力を発見する力
4 苦難を克服し、自ら開拓しうたくましく人間に	粘り強く取り組む態度	情報を収集・整理する力	課題発見・解決力
5 国際理解の心を持ち、国と郷土を愛する人間に	自分事として物事をとらえる	地球規模で物事を見る	新しい価値を創出する力

★どのような手立て・指導上の工夫で迫るか

単元のはじめにガイダンスを入れ、単元の目標や授業の進め方、どんな力を身に付けていくのかを共通理解し、生徒が見通しを持って学習できるようにする。また単元の途中で学習を振り返る中間フィードバックの時間を設け、生徒が自分自身の学びを調整する時間を作り、それ以降の学習を改善するのに役立てるようにする。また課題である Small Talk がスムーズにできるように毎時間スモールトークの練習することと、質問力と回答力を向上させるために、Q&A方式でクイックレスポンスの練習を毎時間するようにする。

学びのつながり	① 相手のことをもっと知るためには、どんな質問が適切か。 ② 自分のことをもっと知ってもらうために必要なことは何か。	単元全体に関わる問い ① 命令文や「What+名詞…？」の文の意味を理解し、活用の仕方について学習する。 ② オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンの違いを理解し、活用の仕方について学習する。 ③ Q&Aの練習をとおして、すばやく回答する力を身に付ける。 ④ 相手のことを知り、自分のことを知ってもらうためのやり取りをする方法について学習する。	小学校と繋ぐ Unit1 This is me. Unit2 How is your school life? ※小学校教科書より	既習事項と繋ぐ Unit1 自己紹介 Unit2 ロールプレイ Unit3 Small Talk	今後の学習と繋ぐ Stage Acticity1の “All about me”ポスター作りでの自己紹介や英語を使った即興のやり取りの力に繋ぐ	教科等横断的にはたらく力 目的・場面・状況に適した質問を考える力はBTでの問いを考える力や国際理解の視点を考える力に働く



7. 本時の目標および探究的学習活動の見どころ

目標：③お互いのことをよりよく知るために、目的や場面を理解し、オープンクエスチョンやクローズドクエスチョンを使い、会話を深めることができている。

④自分のことをよりよく知ってもらうために、目的や場面を理解し、相手の質問に対して、+1文や+2文の情報を加えて回答することができる。

⑤相手に話に対して、興味や関心を持ち、適切なリアクションを使って反応しようとしている。

探究的学習活動の見どころ：思考ツールの四象限マトリックスを使い、適切な質問に迫っていくところ。

8. 本時の学習過程

	学習内容・活動	○指導と★その意図 ◆評価
導入	1. ペアでQ&Aの練習をする。 2. ペアでSmall Talkをする。 話題：「Are you good at cooking?」 3. 本時の目標について知る。	○ワークシートを使い、質問に答える練習をさせる。 ★いろいろな質問に対して即座に答える力を身に付けさせることと質問のパターンインプットするため。 ○教師のモデルを聞かせる。 ★どんな表現を使っているかを聞かせる。 ○数人の生徒を指名し、教師とやり取りをする。 ★生徒とのやり取りの中で、リアクションの仕方や質問の仕方に気づかせる。 ★必要があればリキャストをしながら、正しい表現をインプットするため。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 本時のめあて 相手のことを知り、自分を知ってもらう質問について考えよう！ </div>		
展開	4. Unit4教科書の内容を振り返る。 5. 相手を知り、自分を知ってもらうためのポイントについて学習する。 ・ポイント1 リアクションについて ・ペアでSmall Talkをする。 ・ポイント2 質問について ・ポイント3 +1文について	○はじめにペアで交流をさせ、その後インタラクションをしながら、教科書の内容を振り返る。 ★本文の内容理解を深め、表現の活用方法をインプットするため。 ○生徒からリアクションの表現を引き出し、黒板に書いた後、理解・驚き・同意・感想の4つに分類させる。 ★リアクションの表現を引き出し、板書することで新しい発見をする生徒がいるかもしれないため。また表現を整理することでより適切に活用できるようにするため。 ★ポイント1で考えた、リアクションの表現を使わせるため。 ○はじめに目的・場面・状況について考えさせ、それにふさわしい質問とは何か、さらに四象限マトリックスを使って分類させる。 ★相手意識を持たせ、より目的・場面・状況に即したやり取りができるようにするため ★四象限マトリックスを使い、その場にふさわしくない質問があることを理解するため。 ○プラスの情報を加えることで会話が続くことと自分のことを知ってもらうことにつながることを伝える。



展 開	・ペアでもう一度Small Talkをする。	○相手が台湾の中学生だと想定して、自己紹介からのやり取りをするように伝える。 ★台湾の中学生とやり取りをする実際の場面を想定したやり取りをするため。 ★ポイント2で考えた質問を会話の中で使う練習をするため。
ま と め	6. 相手を知り、自分を知ってもらうためのポイントについて振り返る。	○本時の学習の整理をし、この授業以降のSmall Talkで意識することを伝える。 ★再度、本時の目標を焦点化し、どんな力を身に付けたのかを明確にするため。